

手をたずさえて

- 自ら学ぶ生徒
- 正しく行動する生徒
- 健康でたくましい生徒



平成30年10月26日(金)発行

【発行責任者】郡山市立富田中学校長 熊坂 洋

それぞれが“学級力”発揮!! 美しいハーモニーが響く「複祭」合唱コンクール

今年度の合唱コンクールも、どの学年も審査員泣かせの僅差の勝負でした。どの学年も本当にレベルの高い合唱だったと感心しています。1年生は、1年生らしい初々しい歌声でした。2年生では、3年生をも凌駕するほどの質の高い合唱を聴くことができました。そして、3年生。さすがでした。どのクラスも甲乙つけがたい聴く者の心に響くすばらしい合唱を披露してくれました。男声女声のバランスやまとまりという点で、他のクラスを少しリードした3組と5組が、郡山市中学校音楽学習発表会への出場権を獲得しました。3年2組はもちろん他のクラスも3組、5組に引けをとらないクラス合唱でした。また、各学年ごとに優れた指揮や伴奏をした生徒たちにも賞が与えられました。

3年3組と5組は、11月8日(木)に郡山市民文化センターで開催される郡山市中学校音楽学習発表会(市内全中学校等で代表に選ばれたクラスが一堂に会し歌を披露する会)に、学校代表として出場します。是非とも富中PRIDEの歌声を会場いっぱいに響かせてほしいと思います。クラス合唱には不思議な魅力があります。合唱部とは違って未熟で精錬されていない部分も多くあります。しかし、苦しみ悩みながらも学級のみんで創り上げていくところに価値があり、合唱を通して学級としてどれだけ成長できたかが、とても重要です。それが“学級力”になるのです。



3年3組「結一ゆいー」



3年5組「あなたへ～旅立ちに贈るメッセージ～」

	学 級	曲 名	指 揮 者	伴 奏 者
1 年	1 組	あすという日が	伊東 真吾	佐藤 里南
	●4 組	空高く	高橋 らぶ	◆高橋 彩葉
	2 組	この地球のどこかで	◆千葉 桃佳	保高 佑美
	3 組	そのままの君で	田母神 稟	相良屋さくら
	8 組	あさがお	祓川 あさ	堺入 由芽
	●6 組	涙をこえて	小野 琥珀	坂内 萌
	5 組	CHANGING	高橋 直生	古川 優芽
2 年	●7 組	大切なもの	佐藤 淳彩	遠藤 結月
	4 組	道	箭内 佑都	菊池こころ
	5 組	夢のかなう場所へ	齋藤 千桜	武田 花香
	●6 組	ヒカリ	登藤 颯人	◆倉澤 舞
	1 組	旅立ちの時 Asian Dream Song	◆星 大樹	長田 麻由
	●2 組	COSMOS	山口亜由夢	伊藤 杏
	7 組	予感	大友 駿	飯村 琴海
3 年	●3 組	手紙～十五の君へ～	齊藤 巴奈	角田 凜
	7 組	絆	古関 耕大	矢吹里桜奈
	●2 組	証	阿部 愛恵	◆大竹 生織
	4 組	友～旅立ちの時～	小椋 貴弥	武藤 由奈
	◎3 組	結一ゆいー	◆中島 英大	庄子 愛生
	◎5 組	あなたへ～旅立ちに贈るメッセージ～	齋藤 祐希	平栗日菜乃
	6 組	虹	渡辺 莉子	栗田 美優
年	1 組	プレゼント	木村菜々美	大橋 拓馬

【学 級】●優秀賞、◎優秀賞【市音楽学習発表会出場】

【個 人】◆マエストロ賞(指揮者賞)、ピアニスト賞(伴奏者賞)

『合唱コンクール』を振り返って…

市音楽学習発表会に出場する2つのクラス代表生徒に思いを書いてもらいました。

私たちのクラスは毎日7時半に集まって、終了時間である8時ぴったりに終わるというルールを守って練習をしていました。練習の時には、自分が少しでも気になった所があったら、一回止めて良いから皆で助言していこう、という共通理解を図って、一人一人の意見を尊重した練習をしてきました。学活の時間には、歌詞の意味をよく読み直し、大切にしたい所や仲間へのメッセージをプリントに書く作業を行い、皆で励まし合うなど、とても温かいコメントに互いに元気をもらえました。そして、ついに当日、体育館はいつも練習している教室の何倍も広くて、歌っている間は声が跳ね返ってくることがなく、自分たちの声が想像していたよりも全然聞こえず不安でした。しかし、私たちの歌の歌詞にもあるように「信じること」を大切にして、全員がきくと皆となら大丈夫と信じ、最後まで諦めないで歌うことができたと思います。練習の中でいろいろな苦労がありましたが、皆のがんばりが文化センター行きの優秀賞として返ってきました。「賞をもらえたから行ける」ではなく、富田中学校の代表に選ばれて行くという意識を持って、文化センターでは3年3組らしい歌声を響かせてきたいと思います。

(3年3組 佐久間美瑠)

私は、最後の合唱コンクールで悔いなく楽しめてよかったと思います。榎祭までの練習で、男女で対立してしまうことが何回もあって、合唱の練習をすることがだんだん嫌になっていました。しかし、各パートごとに優勝を目標に熱心に練習してきました。そんな困難も乗り越えて、最後はクラス全体で一致団結することができました。当日、歌った5組の歌声は、今までの中で最高だったのではないかと思います。そして、優秀賞を取ったとき、文化センターへ行けることが決まったときは、みんなで喜びあって、今までたくさん練習してきたよかったなと感じました。優秀賞を取ることができたのは、指導して下さった堂山先生と5組のみんなのおかげだと思うので、感謝したいです。

(3年5組 折笠朱李)

思いを後輩に託して…「閉祭」

合唱コンクールの結果発表・表彰に続き、生徒会役員と応援団の引き継ぎが行われました。生徒会長は吉田浩太郎君から今野虹典君へ、応援団長は古関耕大君から尾辻晴君へ、それぞれの思いがバトンタッチされました。3年生の生徒会役員そして応援団幹部の生徒のみんな、本当にご苦労さまでした。心から感謝します。最後は、榎祭への道のりとしてスライド写真が流され、実行委員会の3年生のメンバーが係ごとに登壇し、テーマ曲「花唄」を全員で歌いました。実行委員長を務めた吉田浩太郎君に榎祭に対する思いをまとめてもらいました。



新旧引き継ぎ



新生徒会役員・応援団員たち

最後の榎祭 ～オンリーワンを目指して～

今年の榎祭は、実行委員長という立場で臨みました。また、中学校生活では最後の文化祭であり、特別な思いで企画にあたりました。実行委員会としては、約一ヶ月前から準備を進めてきました。その中でも、オープニングでは去年のクオリティを超えるものを作っていこうと意気込んでいました。しかし、シナリオを作っているときに、その考えは変わっていききました。今年のテーマの「百花繚乱～育てよう力の芽」にあるように、私たち一人ひとりには個性があります。だから、必ずしもナンバーワンである必要はなく、オンリーワンというものを目指して、シナリオをオープニング係の皆で考えました。一人では考えられなかったことが、皆で考えると様々なアイデアが生まれ、素晴らしいものできました。これこそが『百花繚乱』の新たな意味なのだと思います。『百花繚乱』とは、本来秀でた人物が多く出て、優れた業績が一時期にたくさん現れることという意味です。しかし、私は、形や大きさ、色の違う花たちが咲き乱れてはいるが、それらの花たちがまるでひとつのアートであり、人々を魅了しているという情景が想像できました。そこから、1つの個性では成し得ないものが、2つの個性では、3つの個性ではと、どんどん増えていけば、ひとつの大きなアートになるのだと、文化祭の準備を通して学ぶことができました。当日の発表は、クラス、学年、文化部など、どれもそれぞれの持ち味を発揮し、素晴らしい“オンリーワン”の花を見事に咲かせることができました。

この榎祭をもって私は生徒会役員の任期を終えます。生徒会本部で培ったことは必ず将来に役立つと思うので、この経験で学んだことを忘れずに、これからの受験や高校生活、そして社会に出たときに生かしていきたいです。



吉田君、ご苦労様でした！